サッカー部全国選手権大会出場　11年ぶり

帝京五との激闘

初戦突破 粘り強く逆転勝ち

12月28日から、第101回全国高校サッカー選手権大会が開催された。盛商サッカー部は、1回戦帝京五（愛媛）に2―1で逆転勝ちし、岩手県勢として3大会ぶりの初戦突破を果たした。続く2回戦では、強豪履正社（大阪）に0―6で敗れたものの、次へつながる大きな手応えを得た。

盛商の初戦は12月29日浦和駒場スタジアム。相手は愛媛の帝京第五高校で、選手権初出場だった。11年ぶりの全国大会進出とあって、冬休み中にもかかわらず、生徒や先生、家族など、たくさんの人が現地に集まった。

前半はロングボールが行き交う展開となり、きわどい場面もあったが、DFを中心に堅く守って0―0。後半に入ると試合が動いた。先手を取ったのは帝京五。後半9分のところで先制点を許してしまう展開となったが、途中出場の月折隼斗がサイドからのクロスがこぼれたところを左足で蹴り込み、15分に同点に追いついた。勢いに乗った月折は23分、右サイドを突破し、2点目を狙ったシュートがゴール前の原田優汰のもとへ。原田がゴールに流し込み、見事逆転した。その後も追加点を狙って攻め続け、そのまま押し切り、2―1で勝利した。

2回戦は12月31日味の素フィールド西が丘で行われた。相手は大阪の履正社で優勝候補でもある強豪校だ。前半はGK小原健暉がよく守り、相手の得点を許さず0―0。後半は履正社にペースを持って行かれ、0―6で敗退した。

2度目の全国制覇の夢はまた次回に持ち越されることになったが、11年ぶりの全国での戦いは、選手や生徒だけでなく、岩手県民の心も動かした。

（3B　竹内　優花、松尾　一美）

盛商新聞
第168号
発行日
2023年２月28日
編集兼発行
〒020-0866
岩手県盛岡市本宮２丁目35-1
県立盛岡商業高等学校
新聞編集委員会
印刷所
杜陵高速印刷株式会社

県大会優勝を喜ぶ選手たち

声を掛け合った

大町陽斗キャプテン

サッカー部キャプテンの大町陽斗さんにインタビューした。

県大会から全国大会に向けて頑張ったところを聞くと、「全国では自分たちの時間というものが多くはないと思ったので、粘り強い守備というものをさらに鍛えた」と話してくれた。

全国大会に出場した感想を聞くと、「全てにおいて質が高く、まだまだだと思った」と振り返った。

チームワークを深めるために大切にしていることは、日頃の練習から常に声を掛け合うことらしい。

最後に盛商の皆さんに伝えたいことを聞くと、「私たちが県で優勝して全国大会1回戦突破できたのは、自分たちの力だけでは成し得なかったものであり、盛商の方々の支援があったからこそのものだと思う。本当にありがとうございました」と感謝していた。

メンタルが成長

中田洋介監督

サッカー部監督中田洋介先生は、全国大会に向けて、組織的な守備とボールを奪ってからの縦に速い攻撃について指導を強化した。県大会から全国大会までの間に選手たちがどう変わっていったのかを聞くと、「11年ぶりに県大会で優勝できたという自信から、メンタル面が成長した」と話してくれた。全国大会で戦った感想を聞くと、「ほぼプランどおりゲームを運ぶことができたが、最後は全国レベルの高さを痛感した」と振り返った。また、応援について「日頃からサッカー部に対し、様々な場面でサポートしていただきありがとうございます。また、県大会や全国大会においての応援も大変力になりました。今後も頑張りますので応援よろしくお願いします」と感謝の気持ちを話してくれた。サッカー部のさらなる活躍を期待し、これからも応援していきたい。

（3A　桑原ゆきな、畠山　瞳）

円陣を組む選手たち（対帝京五）

県大会の結果

３回戦	８－０	盛岡北	準決勝	２－１	盛岡市立
準々決勝	３－０	不来方	決　勝	２－１	花巻東

全国大会日記

12月21日　盛岡を出発。茨城県の鹿島アントラーズ練習場で練習。

12月22日　鹿島アントラーズユースと練習試合。

12月23日　練習（アップ、パスコン、ポゼッションなど）その後紅白戦、自主練習

12月24日　千葉敬愛高校と練習試合

12月25～27日　練習

12月28日　開会式（国立競技場）その後駒澤大学のグランドで調整

12月29日　1回戦対帝京第五高校（○2―1）

12月30日　駒澤大学高校のグランドを借りて軽く練習

12月31日　2回戦対履正社高校（●0―6）

（2C　山影　峰葵）

うちわも作りました！

試合の行方を見守る応援団

修学旅行に行ってきました 関西方面3泊4日

11月22日から25日までの3泊4日、京都・奈良・大阪へ修学旅行に行った。昨年に引き続きコロナ対策を取りながらではあったが、無事実施することができた。

1日目は鹿苑寺金閣寺、清水寺を見学した。朝の6時半に盛岡駅に集合し6時間以上もの間新幹線に座りっぱなしでみんな疲れていたが、京都に着くやいなや元気を取り戻していた。どちらも日本の歴史が深い建造物で、実際に目にできたときはとても感動した。昔の人々の創造性や建築の技術を深く感じ取ることができた。

2日目は元々予定されていた班別研修が無くなってしまい残念だったが、みんな楽しみにしている奈良公園等を見学しに行った。鹿せんべいをやっている人を多く見たが、群がる鹿に怖がりつつもふれあったりして楽しんでいた。夜には自由時間が少しあり、外に出て京都の町を味わうことができた。

3日目は待ちに待ったUSJ。この日は一日中USJにいられるということで、朝から大きな期待を胸に入場した。それぞれが好きなアトラクション、食べ物、お土産屋さんなどのお店を満喫していた。ホテルについた後はみんな名残惜しそうだったが、同時に3日間の疲労がこの日に一気に出たようだった。

思っていたよりも短かった3泊4日の修学旅行。コロナでの制限もあったが行くことができて本当に良かった。思い出に残る修学旅行となった。

（2A　増澤　香乃、野川いぶき）

雨の法隆寺

鹿せんべいマスト

日　程

11月22日(火)	金閣寺　清水寺
23日(水)	法隆寺　薬師寺 奈良公園
24日(木)	USJ
25日(金)	大阪市内を車中から 見学しながら帰盛

電気削減プロジェクト

生徒会執行部が電気使用量削減を呼びかける

生徒会執行部の3名が中心になって、盛商の電気使用量の削減を目指して活動している。

盛岡商工会議所が開催した「高校生サミット2022エピソード1」の活動に参加して他校のSDGsの取り組みを知り、盛商でもぜひSDGsに関する取り組みをしたいと考えた。1回目は12月12日から16日の5日間。盛商の使用電気量のグラフを掲示し、視覚的に変化がわかるようにし、毎日昼休みに放送で電気使用節約を呼びかけた。ところが、その週の使用量はその前の週に比べて10.3%増加してしまった。「ちょうど寒さが増す時期と重なってしまったことが大きな原因。生徒への周知も足りなかった」と吉田さんは話す。

次回は１回目の反省を踏まえ、全校への周知徹底に力を入れる。この取り組みを通じて、SDGsを身近な問題ととらえ、一人ひとりが意識して生活できるようにするのが大きな目標だ。

生徒の皆さんにお願い

①移動教室時は必ず電気を消してください。

②昇降口など、扉を開けたら閉めてください。

③学校の電気を私用目的で利用しないでください。

互いに声を掛け合いながら、電気料削減を目指していきましょう。

プロジェクト推進メンバー
（左から大野さん、吉田さん、舘澤さん）

盛商を賑やかにするために

生徒会長　2E　小松拓海

生徒会を引き継いで生徒会長になってから、盛商を賑やかにしていくためにはどうしたらいいかを考えるようになりました。

より活気ある学校にしていくためには体育祭や盛商祭などの学校行事を盛り上げていくことが重要だと思います。そのためにはしっかりとした感染症対策が大事になってきます。マスク着用、検温など、コロナ禍以前では無かったことが課せられる日々ですが、基本的な対策が最も重要なことだと考えています。新型コロナウイルスをコントロールできつつある今だからこそ、日頃から手洗い、うがいなどの感染対策を行っていきましょう。

本校は来年度、創立110周年を迎えます。110年目が華やかで活気ある年になるように想いを込めて後期生徒会スローガンを『華』に設定しました。たくさんの先輩方の想いを受け継ぎ、賑やかで華やかな創立110年目を一緒に迎えましょう。

コラム　士魂

▼新型コロナウイルスがまだ流行する中だが、盛商では今年度、保護者来校可能の盛商祭を開催した。クラスやチームの仲間たちと力を合わせ、商品を完売させたり、さまざまな工夫をしてお客様を楽しませたりしてそれぞれの目標を達成することができ、保護者の方々からも高評価を得て、無事成功を収めることができた。▼もう一つ、忘れられない出来事がある。サッカー部の県大会優勝、そして、11年ぶりの全国進出だ。県大会決勝で全校応援をしている中、選手が花巻東のゴールキーパーをかいくぐり、ゴールを決めた瞬間の感動は今でも忘れられない。そしてまた、全国の舞台で勇敢に戦う姿は、盛商の歴史と私たちの心に深く刻まれた。▼もうすぐ3月になる。3年生は卒業し、社会人の一人として新しい生活が始まり、1年生は入学してくる後輩たちを導いていく役割を担い、2年生は受験や就職などの進路活動という大きな山が待っている。これらに立ち向かうとき、大きな失敗や悩み、恐怖などを抱えてしまうこともある。その時は、一度立ち止まって自分を見つめ直すことが大事だと私は思う。見つめ直すことで、忘れていた目標や自分の良いところなど、意外と大切なものを見失っていることに気づく。それを見つけ出し、悩みを乗り越え、大きな成長を遂げることが出来ると思う。失敗を恐れて挑戦しないのはもったいない。もし自分一人で立ち向かえなくとも、親しい友人や頼れる大人の人に相談をすることも一歩踏み出す勇気の一つだ。▼盛商は創立110周年を迎える。過去を振り返ることも大事だが、これからの10年の歴史をどう創るかがもっと大事だ。世界は激動している。この荒波に負けぬ力を蓄えることが私たちには必要ではないのか。

（2D　笹森　希空）

盛商祭2年ぶり開催

家族の来場も

10月15日（土）、16日（日）に2年ぶりの盛商祭が開催された。昨年度は新型コロナ感染防止のために校内での「文化部発表会」という形を余儀なくされた。今年度は、来場者は同居家族のみ、飲食スペースは設けない等の制限付きではあったが、例年に近い形の開催に盛商生は張り切って取り組んだ。来場者は2日間で931名。

書道部圧巻のパフォーマンス

文化部

盛商祭開会式の後は、さんさ委員会によるさんさ踊り、書道部のパフォーマンスと吹奏楽部の演奏が披露された。

さんさ委員会の発表は8月のさんさ祭りをはじめ、披露する機会が多くあっただけあって、息の合った演技であった。

書道部のパフォーマンスは、平井大の曲に合わせて「栄光の扉」を書いた。3年生が引退し、1年生のみになった書道部だが、力強く迫力ある字で私たちを楽しませてくれた。吹奏楽部は「パイレーツオブカリビアン」「シュガーソングとビターステップ」「残酷な天使のテーゼ」「ワタリドリ」が演奏され、観客席からの手拍子で盛り上がっていた。

展示部門では写真部、華道部、美術部が作品を展示披露した。写真部では岩手県高等学校総合文化祭写真部門で入賞した作品も展示されており、ひときわ目をひいた。他にも商業研究部は盛商どら焼きの販売、ワープロ部はタイピング体験、情報処理研究部はLANケーブル製作体験など、それぞれの部の特色を見せた展示コーナーを設けていた。

（2A　藤原　彩羽、藤原　渚海）

さんさ委員会の華麗な踊り

1年生

1年生にとっては初めての文化祭であり、それぞれ不安や緊張があったが、当日までに準備を重ね、自分たちお客様が楽しめる文化祭にすることができた。

流通ビジネス科のAB組は、チャレンジショップを開催した。先輩たちが9月下旬に行った「盛商マート」の商品を教室で売ることになった。接客やレジなど初めてで慣れないことも多かったが、2日間で少しずつコツをつかみ、最終的に商品をすべて売ることができた。

会計ビジネス科のCD組は簿記すごろくコーナーを作った。簿記について楽しく学び、理解していただけるようなゲームである。説明のしかたを工夫することで、お客様もすぐに理解して楽しんでいただくことができた。

情報ビジネス科のEF組は一人ひとりが「プログラミングくん」でゲームを作り、お客様に体験してもらった。幅広い年齢の方々が来てくれたので、年齢に合ったゲームを選んだり、言葉遣いや分かりやすさを意識して丁寧に説明することに気をつけて対応することができた。普段ゲームをすることはあっても、自分でゲームをつくるのは初めてだったが、楽しんでもらうことができた。

今回の文化祭では、学べたことが多かった。来年はさらに楽しい文化祭にしていきたい。

（1A　吉谷地愛叶）

2年生

2学年は「盛商マーケット」を開催した。A組は中部・北陸地方、B組は中国・四国地方、C組は近畿地方、D組は関東地方、E組は九州地方、F組は北海道・東北地方の商品を仕入れ、販売した。何を仕入れるかを決め、各企業に電話をし、商品を届けてもらい販売するという一連の仕事を任された。交渉がうまくいかずに仕入れ先がなかなか決まらないなど、思うようにいかないことがたくさんあった。しかし、昼休み、放課後の時間を見つけて、盛商祭に間に合うように努力をした。当日は、どの班も商品を並べてお客様を迎えることができた。文化祭の楽しみは前日の準備である。どうしたら商品を買ってもらえるか、みんなで和気あいあいと相談しながら飾りつけをした。

コロナの流行のために、同居家族しか来ることができなかったのだが、私たちが想像していたよりも多くのお客様でにぎわった。各班の「いらっしゃいませー」に個性が出ていて面白かった。大部分の班が完売することができたのはうれしいことだった。販売終了後も、売り上げの確認や、仕入れ先へのお礼状を書くなど、やらなければならないことがたくさんあった。それでも、流通ビジネス科で取り組んだ「盛商マート」でついた力を活かして、なんとか最後までやりきることができた。盛商祭「盛商マーケット」で私たちが学んだことはたくさんある。何より、商品を売ることはとても大変なことがわかった。

（2A　藤原　彩羽、藤原　渚海）

1年情報ビジネス科「簿記すごろく」

2年盛商マーケット　売り切るぞ！

3年生

3年生にとって最後の盛商祭だったため、みんなが協力的に動き、スムーズに進んだ。準備の段階からみんな楽しく活動できており、思い出に残るものとなった。

A組はボール投げとフォトスポット。B組はスタンプラリーとフォトスポット、占い。C組はフォトスポットとバザー、ゲーム、輪投げ。D組は的当て。E組は持っている星の個数でもらえるお菓子の個数が変化するカジノと大富豪やババ抜きなどのトランプゲーム、フォトスポット。F組は卓球、ボーリング、ボール入れなどで遊ぶことのできるスポッチャ。今年度の3年生は一つのクラスが複数の企画を分担していることが多かった。フォトスポットは4つのクラスが行っていたが、女の子がよく訪れていた。また、家族の記念写真を撮っていた人もいた。スタンプラリー、占い、ボール投げ、輪投げ、的当てには子どもから大人まで多くの人が参加してくれた。ゲームには男子が多く、子どもも遊んでいた。カジノ、トランプゲームには生徒が多く遊んでいた。スポッチャでは7つほどのミニゲームで遊ぶことができたため、家族での参加が多く、盛り上がっていた。

今年度は、新型コロナウイルスの影響で例年どおりとはいかなかったが、来場者だけでなく生徒も楽しむことのできた2日間であった。

（3C　吉田　愛咲、利府　芽生）

盛商どらやきおいしいよ

平井大の歌を書きました！

演奏する吹奏楽部

とうきょう総文2022新聞部門に津嶋梨瑚さんが参加

8月1日から3日に開催された第46回全国高等学校総合文化祭東京大会新聞部門に参加した。今大会には全国から約300人が参加し、48のグループに分かれて交流新聞の作成に取り組んだ。

交流新聞は丸の内や東京証券取引所、上野公園など都内の各所をグループで訪れて取材し、その特色を新聞にまとめるというものだった。参加者は積極的に各グループの見学場所で取材を行った。私のグループは江東区の担当だった。新江東清掃工場では日本一のゴミ処理施設の仕組みや処理の流れについて学ぶことができた。また、第五福竜丸展示館も訪れ、核の恐ろしさを改めて感じる機会となった。取材したものをグループ内で意見交換をしながら新聞にまとめ上げた。

今回の大会は全国の新聞委員会、新聞部の人と交流できる貴重な機会でもあった。どの学校も個性の光る新聞を作成していて、新聞制作に対する熱量の高さを肌で感じた。

コロナの影響もあり、思うようにできなかった部分もあったが無事に大会に参加することができ、充実した時間を過ごせた。この経験を今後の盛商新聞に還元して、より一層レベルの高い新聞にしていきたい。

（2E　津嶋　梨瑚）

津嶋梨瑚さん

島田澪（1D）さん最優秀賞受賞 岩手県校高等学校総合文化祭写真部門

島田澪さん

岩手県校高等学校総合文化祭写真部門の表彰式が9月26日に岩手県民会館で行われた。本校写真部島田澪さんが最優秀賞を受賞した。島田さんは会計ビジネス科1年生。今回の快挙について、話を聞いた。

写真の題名は「あっ、はっけん！」とした。虫取りに夢中の子どもたちを撮った作品だ。夏休みに御所湖を訪ねた際、ある家族が楽しそうに虫取りをしていたのを見て声をかけ、写真を撮らせてもらったそうだ。最優秀の知らせを聞いて、とてもうれしく、これからもっと頑張っていこうと思ったということだ。次の目標は、JPS展という写真公募展の中でもトップクラスの知名度と応募数を誇る公募展入賞で、そのために新しくカメラを買い、自分自身の気持ちも切り替えて写真撮影に臨みたいと話してくれた。

これからも島田澪さん、そして写真部の活躍に期待したい。

（1A　八角　璃和）

受賞作品「あっ、はっけん！」

シリーズ この部が熱い!! Vol.19

バスケットボール部（男子）

男子バスケットボール部は現在2年生9名、1年生6名、マネージャー2名の計17名で、県ベスト16を目標に活動している。

選抜地区予選では惜しくも県大会への出場を逃してしまったが、1月に行われる新人戦に向けてチームワークと体力をより向上させることに力を入れている。

部長の2C三浦豪太さんによると、ふだんの練習では毎日決めている練習テーマに合わせてトレーニングを行っているそうで、試合を意識したスピード感で取り組んでいるそうだ。また三浦さんは、自分自身の技術力の向上のために、個人的に近くの体育館を借りてシュート練習をするなど、部長としてとても努力していることが分かった。

キャプテンの2F柳本純希さんは「チームワークを高めるために、試合の時に選手同士でたくさん声を掛け合っている」と語ってくれた。また、一人ひとりが考えてプレーをすることなどを意識して、次の大会へ向けて練習に臨んでいることも教えてくれた。

2人は部長、キャプテンとして部員を励ます声がけを積極的に行って、しっかりと部員たちの意見を聞いて取り入れた上で練習を行っている。

このような熱い気持ちを持つ部長、キャプテンが率いる男子バスケットボール部を今後も期待していきたい。

（2B　野川いぶき、増澤　香乃）

第14回 クローズアップ・チャレンジャーズ

今年度赴任された成田敏輝先生と三浦義道先生を紹介したい。

成田先生に盛商に赴任して感じたことを聞くと、「校舎がきれいだし場所が都会」と言っていた。趣味は旅行とのことで、今まで行った中で好きな場所を聞くとコロナ禍前に行った九州で、特に神話と伝説の町と言われている高千穂が好きと話していた。また、好きな言葉は「為せば成る」。これは上杉鷹山の言葉で、どんなことでも強い意思を持ってやれば必ず結果が出るという意味だそうだ。さすが運動部の顧問の選ぶ言葉だと思った。

成田敏輝先生

三浦義道先生は「継続は力なり」という答えが返ってきた。日々の積み重ねが結果を生むから、それを続けている人はすごいと思っているそうだ。私は中途半端なので、この言葉を肝に銘じたいと思った。

（1B　大坪　海斗、藤田　夢叶）

三浦義道先生

三浦義道先生に赴任した学校で、事務の仕事をしていると親近感がある」と話してくれた。

事務室の窓 Vol.14

今回の事務室の窓では吉家さんにお話を伺った。

まず吉家さんに盛岡商業に来る前に持っていた印象を聞くと「商業に関係する専門的な勉強をしている学校で、事務の仕

盛商に来てからは、「のびのび活動していると感じる生徒が多く、男女問わず挨拶してくれるので好印象」とのこと。

吉家さんが好きなのはまずコーヒー。自分で豆を挽いて飲むこともあるそうだ。他にはアロマが好きでアロマを集めてリラックスするのが好きと教えてくれた。

最後に全校へメッセージをお願いすると、「学科ごとに企業の協力を得て開発などを行えるのは、なかなかできることではなく貴重なので、高校生でできることを誇りに思ってほしいし、3年間はすごく短いので、部活でも学校でも好きなことをたくさんやって1日1日を楽しんでほしい」と話してくれた。

話をしていると自然とこちらも笑顔になる素敵な方だった。事務室に行く機会はなくとも、学校で会った際はぜひ話しかけてみてほしい。

（1C　小川　海緒、菅野　希和）

吉家恵さん

フィールドワークで産業を知る ～1学年地域創生プロジェクト～

11月25日、私たち1年生は総合的な探究の学習で地域産業の強みを知るためにフィールドワークを行った。それぞれのクラスで訪問する場所を決めた。C組は陸前高田市を訪問することになった。4人グループに分かれ企業を調べ電話をした。私たちのグループは約150年続いている相野果樹園を訪問した。相野果樹園での1日のスケジュールは、朝はゆっくりコーヒーを飲んだり新聞を読んだりして9時頃から作業を開始し、12時から2時まで休み、5時頃まで働く。天気が悪いときは休むか直売所で作業をしていると教えてくれた。農業は重労働のイメージがあるけれど、機械などを使って比較的楽しく作業をしているとも言っていた。海からの風を受けてとても甘いリンゴが作れるということだった。

今回地域産業の強みを知るためにいろいろな企業を訪問して、さらに陸前高田市の良さを知ることができた。岩手県内のことでも、私たちが知らないことはたくさんある。これからも調べていきたい。

（1C　小川　海緒、菅野　希和）

相野果樹園のみなさんと

フィールドワーク訪問先

1A　宮古市	1D　釜石市
1B　大船渡市	1E　気仙沼市
1C　陸前高田市	1F　岩泉町